

# 洞爺湖ビジターセンター 2014年度 自然ふれあい通信

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館では毎月1回、洞爺湖周辺の自然と親しむ「自然ふれあい行事」を開催しています。その様子を少しご紹介します。

## 1月31日(土) キッチン火山じっけん



1月は冬のまっさかりです。例年通りだと洞爺湖でも雪が積もって一面真っ白になります。しかし、今年は洞爺湖ビジターセンターの敷地内で枯草や土が見えているところがあり、雪の少なさを実感します。

そんな洞爺湖ビジターセンターのレクチャールームで1月の自然ふれあい行事キッチン火山じっけんを行いました。ココアやチョコレートなど、食べられるものを使って火山のしくみについての実験を行い、実験で使ったものは、後でおいしく食べちゃおうという企画です。



実験に使うチョコレートをまぜているところ。  
チョコレートと生クリームがマグマの代わりに使います。



ココアとチョコレートで溶岩ドームができました。  
この地域では溶岩ドームがたくさん見られます。

スライドで洞爺湖や有珠山の成り立ちについて学び、洞爺湖有珠山地域には溶岩ドームというものがたくさんあるのだと分かりました。そこで、チョコレートとココアを使って溶岩ドームを再現する実験を行いました。ココアで作った大地の下から、溶かしたチョコレートと生クリームを混ぜて作ったマグマを押し出すと、本物にそっくりな溶岩ドームができます。実験で作った溶岩ドームのまわりをさらに観察すると、地割れや地殻変動が起きていることも観察できます。

上の実験で使ったチョコレートを冷やして固めている間に、噴火が起こったらどんなことが起こるのかを学びました。噴火が起こると噴石や火山灰が降ってきたり、火砕流が流れてきたりします。有珠山2000年噴火では熱泥流が流れてきました。噴火には種類があります。マグマ噴火・水蒸気噴火・マグマ水蒸気噴火の3種類です。有珠山では水蒸気噴火とマグマ水蒸気噴火が起こりやすいと言われています。そこで、水蒸気噴火の原理を再現するためにポップコーンを作る実験を行いました。ポップコーンも地下水も温められると、大きくふくれあがります。ふくれあがった地下水(水蒸気)が地面の下でパンパンになると、地面が耐えきれなくなって爆発し、周りにあった岩盤や土を地上へまきちらします。西山遊歩道(冬季は閉鎖中)では水蒸気噴火でできた火口の様子が観察できます。



あいじょうきはばくはつの説明では  
ポップコーンを使いました。

冬の間は遊歩道が閉鎖されていて実際の火山活動が間近では見られません。しかし、資料を読んだり、部屋の中で実験などを行い、火山への理解を深めておくことで、雪がとけて遊歩道に出かけたとき、さらに散策が楽しくなるはずですよ。

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館では、みなさまにより分かりやすく火山のしくみを伝えるための方法をこれからも開発していきます。おたのしみに。

